

|   |  |         |          |
|---|--|---------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)  | 生涯学習・社会教育学特論 (2単位)   | 3. 科目番号 | EDMP5239 |
| 2. 授業担当教員   | 【池袋】手打 明敏 【名古屋】小野 智一   |         |          |
| 4. 授業形態   | 講義・演習  | 5. 開講学期 | 秋期       |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係                                     | 履修条件は特になし  |         |          |
| 7. 講義概要   | <p>「生涯教育・生涯学習」という考え方は、1960年代以降にわが国に導入され、教育改革の原理として成人継続教育としてキャリア教育、リカレント教育などに反映されている。この考え方は、学校外教育、社会で行われる教育を対象とする「社会教育」と通じるところがあり、わが国の「社会教育」概念を豊かに発展させる理論的・実践的基盤として理解されている。</p> <p>本講義では、「生涯学習・社会教育」に関する理論ならびに歴史的、政策的変遷について国際比較の観点から概説する。同時に、地域社会の住民の学習活動を支える専門職員である「社会教育主事」「司書」「学芸員」の役割について学び、学校と地域との連携や行政・民間レベルでの様々な取り組みを通じて、実践的研究課題について理解を深めることを目指す。</p>   |         |          |
| 8. 学習目標   | <p>本講義では、わが国の社会教育の考え方や、歴史的形成過程について理解するとともに、「生涯教育・生涯学習」の国際的動向について理解し、生涯学習・社会教育分野の研究動向を理解し、受講生自身が研究課題を明確化することを目標とする。</p> <p>そのため、以下の学修目標を設定する。</p> <p>1) 「生涯学習・社会教育」を支える理論・思想を理解し、自らの研究課題の理論的、思想的意義を明確にすることができる。</p> <p>2) 「生涯学習・社会教育」の現代的意義を理解し、学校と地域の連携や行政・民間団体等の学習支援活動の役割を理解し、直面している実践課題を明確にすることができる。</p> <p>3) 「生涯教育・生涯学習」の国際的動向について理解し、研究課題を明確化することができる。</p> <p>4) 以上の学修をふまえ、みずからの研究課題を設定できる。</p> |         |          |
| 9. アサイメント<br>(宿題) 及びレポート<br>課題                          | <p>【アサイメント】<br/>テーマに関連した文献、資料を読み、授業で発表・討議する。</p> <p>【レポート課題】<br/>関心のあるテーマを選び、レポートを作成する。</p>  |         |          |
| 10. 教科書・参考書<br>・教材                                      | <p>【教科書】<br/>手打明敏・上田孝典編著『社会教育・生涯学習』(MINERVA はじめて学ぶ教職7) ミネルヴァ書房、2019.</p> <p>【参考書】<br/>授業中に指示する。</p>  |         |          |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法                                   | <p>○成績評価の規準<br/>生涯学習・社会教育に関する研究動向を理解し、現代的課題を明示できる。<br/>生涯学習・社会教育に関する実践事例の意義と課題を理解できる。</p> <p>○評定の方法<br/>出席・授業態度 (20%)<br/>アサイメント (30%)<br/>レポート課題 (50%)</p>  |         |          |
| 12. 受講生への<br>メッセージ                                      | 生涯学習・社会教育の対象者は在学青少年から成人、高齢者まで多様です。学習者の学習課題を理解するには社会教育学のみならず心理学、社会福祉学などの知見も求められます。受講生の皆さんは幅広い関心をもって授業に参加してください。   |         |          |
| 13. オフィスアワー   | 別途通知する   |         |          |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 |  |         |          |
| 1. テーマ  | 社会教育・生涯学習と学校Ⅰ  |         |          |
| 【学習の目標】   | 社会教育・生涯学習と学校の関係について理解する。   |         |          |
| 【学習の内容】   | ①生涯教育論の提唱と学校の機能変容について<br>②生涯学習政策と学校について  |         |          |
| 【キーワード】   | 生涯教育、生涯学習、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育  |         |          |
| 【学習の課題】   | 生涯教育、生涯学習、社会教育、学校教育の関係について理解する。  |         |          |
| 【参考文献】  | 教科書の序章   |         |          |
| 【学習する上での留意点】  | 生涯教育から生涯学習への転換について整理する。  |         |          |
| 2. テーマ  | 社会教育・生涯学習と学校Ⅱ  |         |          |
| 【学習の目標】   | 生涯学習政策と学校の役割   |         |          |
| 【学習の内容】   | 生涯学習政策のもとでの学校の役割について   |         |          |
| 【キーワード】   | 学社連携、開かれた学校、学社融合、地域連携  |         |          |
| 【学習の課題】   | 地域と連携する学校について理解する。   |         |          |
| 【参考文献】  | 教科書の序章   |         |          |
| 【学習する上での留意点】  | 地域づくりに求められる学校の役割について考察する。  |         |          |
| 3. テーマ  | 社会教育・生涯学習と学校Ⅲ  |         |          |
| 【学習の目標】   | 「開かれた学校」と社会教育関係について理解する。   |         |          |
| 【学習の内容】   | 「開かれた学校」が求められる社会的背景と法的根拠   |         |          |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>【キーワード】 教育基本法、地域学校協働活動</p> <p>【学習の課題】 地域学校協働活動に理解する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第6章</p> <p>【学習する上での留意点】 開かれた学校を支える社会教育の役割について理解する。</p>   |
| 4. テーマ  | 社会教育・生涯学習の思想と歴史  |
|         | <p>【学習の目標】 社会教育の歴史と思想</p> <p>【学習の内容】 社会教育の成立と思想背景</p> <p>【キーワード】 社会教育法、公民館</p> <p>【学習の課題】 日本の社会教育成立の背景と公民館の設置</p> <p>【参考文献】 教科書の第1章</p> <p>【学習する上での留意点】 日本の社会教育施設の特徴である公民館について理解する。</p>  |
| 5. テーマ  | 世界の生涯学習政策  |
|         | <p>【学習の目標】 ユネスコの生涯教育論について理解する。</p> <p>【学習の内容】 ユネスコの生涯教育論と日本への導入について</p> <p>【キーワード】 国際成人教育会議、学習権宣言、中央教育審議会答申「生涯教育について」</p> <p>【学習の課題】 国際機関（ユネスコ、OECD）の生涯教育、生涯学習の考え方を理解し日本への導入、展開について理解する</p> <p>【参考文献】 教科書の第5章</p> <p>【学習する上での留意点】 SDGsとノンフォーマル教育の関係について検討する。</p> |
| 6. テーマ  | 社会教育・生涯学習の施設と職員Ⅰ   |
|         | <p>【学習の目標】 生涯学習を支える社会教育施設の理解</p> <p>【学習の内容】 公民館、図書館、博物館の教育機能</p> <p>【キーワード】 寺中構想、社会教育法第20条、図書館法、博物館法</p> <p>【学習の課題】 教育機関としての社会教育施設を理解する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第3章</p> <p>【学習する上での留意点】 地域に設置されている社会教育・生涯学習施設を利用して体験的に学んでみる。</p>                                      |
| 7. テーマ  | 社会教育・生涯学習の施設と職員Ⅱ   |
|         | <p>【学習の目標】 生涯学習を支える社会教育職員</p> <p>【学習の内容】 社会教育職員の職務を理解する。</p> <p>【キーワード】 社会教育主事、司書、学芸員</p> <p>【学習の課題】 社会教育専門職員と学校教員の学習支援の方法の違いについて検討する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第3章</p> <p>【学習する上での留意点】 公民館、図書館、博物館の専門職員にインタビューして職務内容を理解する。</p>   |
| 8. テーマ  | 地域防災教育の展開Ⅰ   |
|         | <p>【学習の目標】 地域防災教育における社会教育の役割</p> <p>【学習の内容】 自然災害（地震、台風）に備える教育課題について理解する。</p> <p>【キーワード】 防災計画、住民自治、防災文化</p> <p>【学習の課題】 地域防災教育とは何かを理解する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第8章</p> <p>【学習する上での留意点】 避難所として使われている社会教育施設について確認する。</p>   |
| 9. テーマ  | 地域防災教育の展開Ⅱ   |
|         | <p>【学習の目標】 地域防災教育の実践事例の検討</p> <p>【学習の内容】 地域防災教育の実践について理解する。</p> <p>【キーワード】 ローカル・ナレッジ、避難所、レジリエンス</p> <p>【学習の課題】 地域防災教育における地域と学校の連携について理解する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第8章</p> <p>【学習する上での留意点】 地域の防災学習施設について調べておく。</p>   |
| 10. テーマ | 貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育Ⅰ   |
|         | <p>【学習の目標】 子どもの貧困と教育課題①</p> <p>【学習の内容】 子どもの貧困の実態と教育課題について理解する。</p> <p>【キーワード】 相対的貧困、子どもの貧困対策推進法</p> <p>【学習の課題】 子どもの貧困と相対的貧困を理解する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第9章</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの貧困に関わる情報を調べ、整理しておく。</p>  |
| 11. テーマ | 貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育Ⅱ   |
|         | <p>【学習の目標】 子どもの貧困と教育課題②</p> <p>【学習の内容】 子どもの貧困に対応する社会教育実践を理解する。</p> <p>【キーワード】 プレイパーク、子ども食堂、社会教育施設</p> <p>【学習の課題】 子ども食堂の教育的意義を考察する。</p> <p>【参考文献】 教科書の第9章</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの貧困に対処する社会教育の役割について整理する。</p>   |
| 12. テーマ | 多様性を包摂する社会教育を目指してⅠ   |
|         | <p>【学習の目標】 日本社会におけるマイノリティの人権保障—在日韓国・朝鮮人に着目して—</p>  |

|              |   |
|--------------|---|
| 【学習の内容】      | 第二次大戦後の在日韓国・朝鮮人の民族教育のあゆみを理解する。                |
| 【キーワード】      | オールドカマー、ニューカマー、川崎市在日外国人教育基本方針、川崎市「ふれあい館」      |
| 【学習の課題】      | 川崎市の在日韓国・朝鮮人教育支援の取り組みを理解する。                   |
| 【参考文献】       | 教科書第13章                                       |
| 【学習する上での留意点】 | 日本社会における在日韓国・朝鮮人の歴史を視野に入れて検討する。               |
| 13. テーマ      | 多様性を包摂する社会教育を目指してⅡ                            |
| 【学習の目標】      | 多文化共生と社会教育の課題                                 |
| 【学習の内容】      | 現代日本の多文化・多民族化の状況と教育課題について理解する。                |
| 【キーワード】      | 難民条約、国際識字年、「多文化共生の推進に関する研究会報告」（総務省）、外国人集住都市会議 |
| 【学習の課題】      | ヘイトスピーチ解消法の意義と課題について                          |
| 【参考文献】       | 教科書第13章                                       |
| 【学習する上での留意点】 | マジョリティにとっての多文化「共生」の意味について検討する。                |
| 14. テーマ      | 受講者の課題レポートテーマの検討                              |
| 【学習の目標】      | 本講義を通じて関心をもった課題レポートテーマの明確化                    |
| 【学習の内容】      | 受講者のレポートテーマの発表と討論                             |
| 【学習の課題】      | 研究テーマの課題を提示する                                 |
| 15. テーマ      | 受講者の課題レポートの構想発表と検討                            |
| 【学習の目標】      | 課題レポート構想案を明確化。                                |
| 【学習の内容】      | 課題レポート構想案の発表と討論                               |
| 【学習の課題】      | 課題レポートの概要をまとめる                                |